

CONTENTS

■ 都城木青会リクルート木育勉強会	… 1
■ 木育リーダー研修「ひなた箱」づくり	… 2
■ みやぎ木育プログラム年長児「ひなた箱」づくり	… 3
■ 木育マイスターの活動のご紹介	… 4

都城木青会リクルート木育勉強会

日 時: 令和7年6月3日(火) 17:30~19:00
場 所: 都城市林業総合センター(都城市)
講 師: 一般社団法人KASANE
代表理事 松井 勲尚 氏、理事 吉田 理恵 氏
参加人数: 34名(都城木青会員26名、宮崎県庁4名、
県木材協同組合連合会2名、森林林業協会2名)

都城地区木材青壮年会(以下、都城木青会)では、昨年に引き続き「リクルート木育勉強会」を行いました。今回は、今年度実施する木育活動の中で、地域の高校生や中学生に道具の使い方等を指導する際の、正しい道具の使い方と指導方法を学びました。

▶ 外山会長 挨拶

今年の木育は、単発の木育で終わらずに、今回の研修会で、ノコギリの使い方を学び、高校生にきちんと伝え、そして小学生にバトンを渡す流れにしていきたい。

本来であれば4時間で終わる講義を今回は圧縮しての講義になるので、しっかり集中して勉強会に取り組んでいきたい。



都城木青会
外山会長

▶ 木青会の木育教室開催にあたり

今回は、ノコギリについてお話しします。林業・木材産業界にとって生業となる最も基本的な作業は「木を切る」ことです。 「リクルート木育」を推し進めるためには、木育教室などで、この楽しさや喜びを子どもたちに伝えることができるかにかかっています。普段皆さんは、高性能林業機械や製材機械などで作業されていますので、実際にノコギリを使う機会は少ないかと思いますが、この研修で改めて「木を切る」ことを体験的に考える場としてください。

重要なのは、人と木を繋ぐ道具としてノコギリがあるということです。そして、人の健康や森や木の健康と共に、「道具の健康」も意識することが、怪我無く安全な木育教室の運営に繋がります。

宮崎県の森林の5分の3は人工林です。県内の多くの森は、担い手である皆さんが守っているのです。木育教室では、どうかその誇りも伝える場としてください。



松井先生



▶ 道具の使い方

ノコギリの具体的な使い方を吉田先生より学び、実際に餌肥スギとヒノキについてノコギリ体験を実践しました。



木育リーダー研修「ひなた箱」づくり

保育者へみやざき木育プログラムの研修を通して、木育への理解及び目的の共有化を図り、モデル園内からの木育推進及びサポート体制の確立を目指す研修会を実施しました。



日時: 令和7年6月4日(水)、5日(木)10:00~16:00

場所: ひかりの森こども園(三股町)

講師: 一般社団法人KASANE 代表理事 松井 勲尚 氏、理事 吉田 理恵 氏

参加人数: 17名(ひかりの森こども園保育者3名、あやめ原こども園保育者3名、めぐみ保育園保育者2名、四季の森こども園保育者1名、都城木青会6名、事務局2名)

▶ アイスブレイク

県内の保育者と都城木青会の方が参加しました。好きな木とその理由を踏まえ自己紹介をしながら交流することから始め、今回の研修のタイトル「〇〇を通して□□」について吉田先生から説明がありました。「今まで、国が進める『木育』という、木育を広げるという目的意識が強かったのですが、木育は手段にすぎないという考え方が強くなってきています。テーマの〇〇に当てはまる言葉は「木育」だけでなく様々な言葉が入るので、みやざき木育プログラムを通して、自分なりに〇〇と□□にどんな言葉を当てはめるかを考えてほしいと思います。」

▶ ガイダンス講義

宮崎県はスギの素材生産量が日本一となるなど、人が育てる人工林が多いです。そういった人が関わっていった自然は、最後まで人が関わっていくことが大事です。担い手は直近の高校生を育成していくことも大事ですが、幼少期からの長い目で育てることも大事だということで、このプログラムを進めています。

研修の目的と目標を確認したうえで、ひなた箱作りに入ります。
(目的) 日常保育の中で安全に木育活動を継続させるために、木材の基礎知識を学び、木工道具の安全な使い方指導が出来るようにする。

(目標) ①木についての知識を学ぶ。②木工道具を安全に使わせるための知識技術を学ぶ。③作り方や道具の使い方だけでなく、背景や願い、意図を理解しながら伝えることの大切さを知る。

背景も掘り下げながら子供たちや地域の人たちに知識として取り入れていって欲しいと思います。

▶ 木の基本知識 ひなた箱づくり

木の特性(木目、色目、そり等)やそれをふまえた組み立て方や作業工程、子どもを指導する上でのポイントを学びながら、ひなた箱づくりを行いました。

今回初めて使う道具は玄翁です。その使い方を学び練習してから組み立てました。

▶ ふりかえり

第1期モデル園、第2期モデル園、木青会のメンバーで、今回の感想や2週間後のひなた箱スタートアップに向けた意見交換を行いました。今回参加された木青会の皆さんの感想も一部ご紹介します。

「スタートアップでは、全ての工程を伝えると、聞き慣れない道具もあり、一つ一つの工程を伝えれば良いというアドバイスを頂いたので、スタートアップでは細かく分けて指導していきたいと思っています。」「スタートアップに向けて分からないことが沢山あったので、どのように進めているのか伺え、とても参考になりました。」「道具が足りない時は、木青会からも借りることが出来るということです。」「地域の方との

交流も含めながら木育を進めていきたいと思っています。」

「私たちも木工工作はやっているが、簡単なキットで作っていたので、今日は直角を見ながらやったりする等、今までの知識では出来なかった。」「木青会と保育園との繋がりは今まであったが、都城以外にも保育園がこんなに木育をやっているのはとても驚いた。」「自分たちは都城圏域でしか活動は出来ないが、県内には木青会は7つあるので、今回参加されている圏域外の園とも、何かしらの繋がりが出来たのではないかなと思う。都城木青会に限らず、引き続きお付き合いをさせて頂きたいと思う。」

みやざき木育プログラム年長児「ひなた箱」づくり

一般社団法人KASANEの松井氏と吉田氏の監修のもと、モデル園2園で、年長児プログラムの「ひなた箱」作りのスタートアップが実施されました。



あやめ原こども園(都城市)

日時:令和7年6月25日(水)10:00~12:00

参加人数:47名(園児15名、地域サポーター24名(保護者12名・高齢者7名・南九大生5名)、園長、保育者4名、事務局3名)

見学:7名(県議2名、市議2名、ひかりの森こども園3名)

ひかりの森こども園(三股町)

日時:令和7年6月26日(木)10:00~12:00

参加人数:48名(園児19名、地域サポーター22名(保護者)、保育者4名、事務局3名)



▶ ひなた箱づくり

ひなた箱づくりは、日常保育の中で継続的に実施する年長児対象のプログラムです。プログラムの導入として紙芝居『うさぎさんのひなた箱作り』があります。あやめ原こども園ではスクリーンで映し出し、ひかりの森こども園では、保育者が子どもたちとサ地域ポーターの方に読み聞かせを行いました。

その後は、それぞれの園の保育者が組み立て方や、道具の使い方を説明し、地域サポーターの手伝いのもと、組み立てていきました。

今回は、直角を確認するための道具であるスコヤと、釘を打つ玄翁を初めて使用しましたが、事前に玄翁を打つ練習をして本番をむかえました。

【ひかりの森こども園】

「今回、ひなた箱作りを通して、作り手の人の気持ちが凄く分かった。木裏木表、柄とか釘打ち等々、今までただ買うだけだったが、この活動を通して色々な人が携わっていて、作り手の思いも凄く分かった。パートナーの凄さも分かったし、1人では出来ないし、みんなが協力しているんだと感じる活動だった。」「ひなた箱はこれから続きがあるので、園児とどのようにして工夫しながら進めていくのか楽しみである。」

▶ 各園参加者の感想

【園児】

「トントンするのが楽しかった。」「ボンドを塗るのが楽しかった。」「釘を打つところが難しかった。」「作ることが楽しかった。」

【地域サポーター】

「貴重な体験をさせて頂いた。釘を打つのも久々の経験だし、子どもにはのこぎりや釘打ちは危なくてさせていなかったのでも楽しい経験だった。」「回を重ねる度に上手くなっている。」

▶ ふりかえり

【あやめ原こども園】

「今日を迎えるにあたり、第一期モデル園の保育者と意見交換をさせて頂きながらプログラムを進めていけたことに感謝でいっぱいである。」「保護者、地域の方、学生が慣れ親しんだ方のように一緒にやって園児が楽しんでる姿を見て凄く良かった。」

「自分たちで工夫する力や園で求めている自分で考えて行動することが木育を通して出来ていると感じた。」

▶ 松井先生より

地域で子育てをする。少子化の今だからこそ、地域で子どもを支える関係性の構築が必要です。そのひとつの方法として木育プログラムが有効ではないかと考えます。今回のプログラムはきっかけに過ぎず、日常保育で木と向き合う時間が増えることがねらいです。ひなた箱を上手く作ることも大事ですが、もっと大切な事は、紙や土と同じように、木が身近になることです。

▶ 吉田先生より

日常保育の中であらかじめ道具の使い方を伝えていたことが良かったと思います。日常の中に入り込んでいくことを大切にしている取り組みだからです。また、自分で考えて立つ場所を移動したり動いたりする様子を見て、主体的に考えることに繋がっていると感じました。

まとめのお話では木の命と、人の命が繋がっていることも抑えられていて、保護者が集中して聞く姿に取り組みの意味や目的を理解されている様子が伝わってきました。普段のこども園での活動との連動性も実感されたのではないのでしょうか。

加江田保育園 (宮崎市)

日 時: 令和7年8月2日(土) 10:00~11:00
講 師: みやざき木育マスター 匹田 翔 氏
参加人数: 49名(園児22名、保護者22名、保育者5名)

保育参観として「森の雫」の実践を始めるにあたり、児玉園長先生より「木のぬくもりを子どもたちに感じてもらいたい」と挨拶がありました。その後、木育マスターの匹田さんが講師となり「森の雫」づくりを行いました。

最初にモニターで、「木」について、クイズと映像で、山の木が倒され製材所に運ばれ、製品になるまでを説明しました。また、保護者に向けて、林業・製材業者には、女性や若い人が活躍していること、いろんな職業で木に携わることができることを説明しました。

先生方によるピアノの演奏付きの紙芝居「もりのしずく」の読み聞かせの後、親子で「森の雫」を作りました。園児は、先生方が作った見本を触り、削れるところまで削りました。

室内に設置された森の絵は、普段はお遊戯会などの時に使用されるもので、今回の木育イベントの為に設置されたものです。

先生方との振り返りでは、「親子の意外な一面が見られ良かった」「子どもも映像を良く見ていた」などの声が聞かれました。



加江田保育園
児玉園長先生



みやざき木育マスター
匹田 翔 氏



木育マスターの活動のご紹介

木育マスターが県内の保育園で、木育プログラム「森の雫」を実践しました。

富高保育園 (日向市)

日 時: 令和7年8月21日(木) 9:30~11:15
講 師: みやざき木育マスター 家村 祐香 氏
参加人数: 28名(園児20名、地域サポーター2名、保育者5名、見学者1名)



富高保育園
赤木園長先生



みやざき木育マスター
家村 祐香 氏

「森の雫」の実践を始める前に地域サポーターと保育者を対象に地域サポーター養成講座が行われました。

実施の際には、赤木園長先生が栗の木の枝葉を園児に見せて、木が身近にあることを伝えました。その後、木育マスターの家村さんが園の窓から見える木を見ながら、「森の雫」の材料と同じ「木」であることを伝え、材料の木目を見せて、木目が木の年齢であることと、先生よりも長生きな木があることを伝えました。

「森の雫」づくりでは、各テーブルに大人が1名ついて、園児のサポートを行いました。

振り返りでは、地域サポーターより「木育で集中力や集団での活動、思いやりの心が育つなと感じ、凄く良いと思った。」保育者より「自分なりに削り方を工夫しており、考える力に繋がっていると感じた。」「同じ木の年長さんが年中さんに教えてあげたりしていた姿が見られた。」などの感想がありました。木育マスターの家村さんからは、「木の種類や木目についてなど、子どもたちの心に少しでも残ってくれと良いと思う。」と伝えられました。



木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ